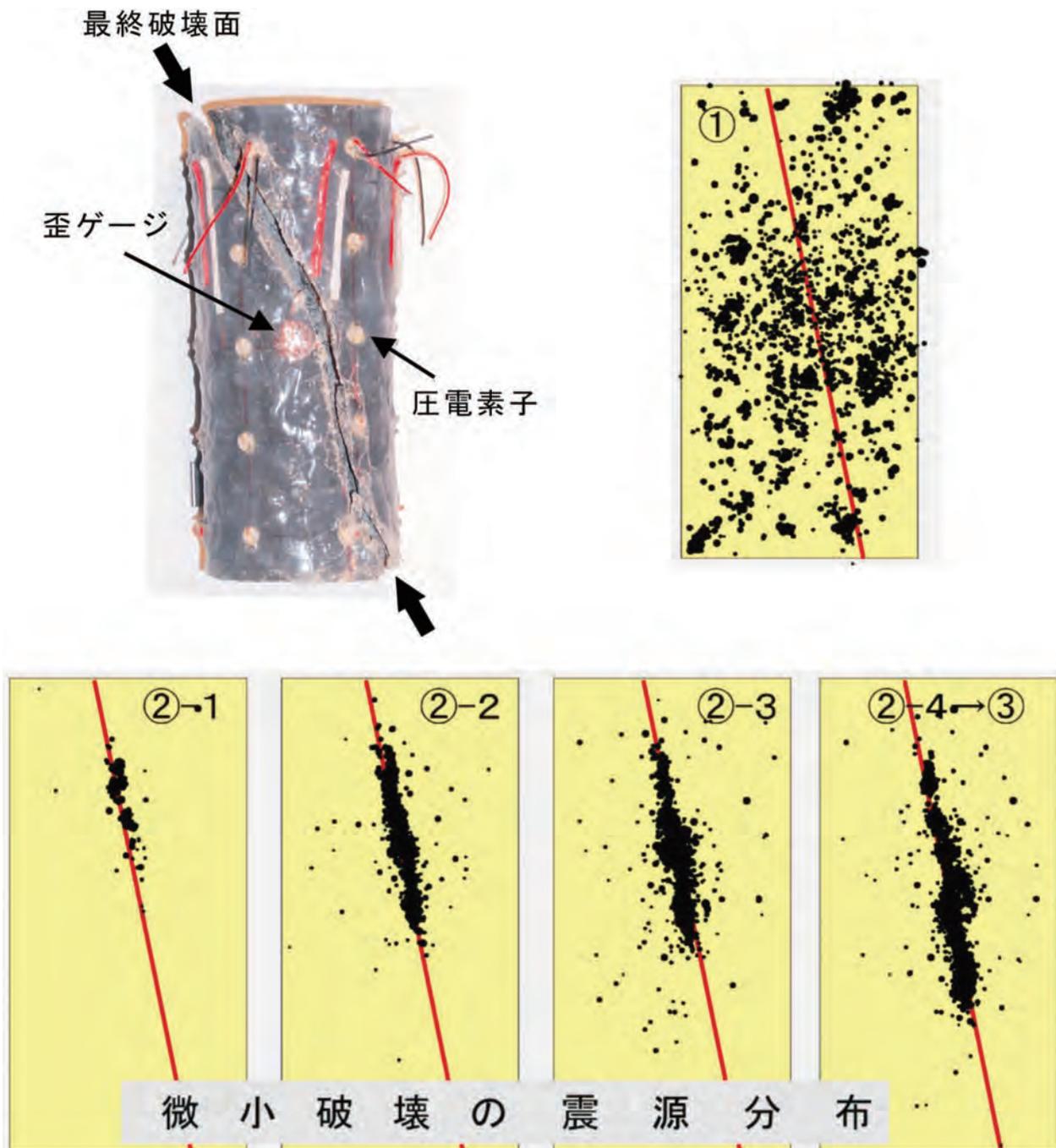


## 実験室で再現した地震現象

<佐藤 隆司<sup>2)</sup>・雷 興林<sup>3)</sup>>



岩石試料に力を加え、最終破壊に至る微小破壊の時空間分布を詳しく調べた実験です。左上の写真は実験で破壊された岩石試料です。実験中は圧電素子(白い円形のセンサ)により、微小破壊発生に伴って励起されるAE(アコースティック・エミッション)と呼ばれる高周波の振動を捉えます。右上の図は実験開始から最終破壊面(赤い線)形成開始直前までのAE震源分布で、下の図は最終破壊面形成開始以降の震源分布の時間変化を示しています。試料全体に分布していたAE震源が、最終破壊面の形成とともに破壊面に沿って拡大していくのが分かります。